

平成28年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」成果報告書

団体名	世田谷区教育委員会
-----	-----------

I 概要

1 事業の概要

○光明特別支援学校を会場とした「ボッチャ」の交流及び共同学習

- ・各交流校とボッチャを通じた交流及び共同学習を行った。

回数等は以下のとおりである。

- 代田小学校 3回(4.5.6年各1回ずつ) ●松原小学校 1回(4年)
- 梅丘中学校 梅の香フェスタ「ボッチャ体験会」に光明生徒参加
- 奥沢小つくし学級・松沢小きはだ学級
- 東深沢中学校 1回(特別支援学級1~3年)

- ・会場は光明特別支援学校体育館を使用。どの交流も前半に親睦を深める活動をし、後半に、児童生徒同士が交流できるような形でパラリンピック公式種目「ボッチャ」を行った。

○光明特別支援学校教員による出前授業の実施

- 代田小学校 土曜日のPTA活動「ボッチャ教室」

- ・光明特別支援学校の体育科教員4名が、世田谷区立代田小学校の「PTA家庭教育学級」へ講師として出張し、ボッチャ教室を実施。

○予算の活用

- ・ボッチャボールセット、ランプを各1ずつ購入予定。

貸出し用については、昨年度のものにプラスして光明特別支援学校で保管し、要請があればいつでも貸し出すことになっている。

○運営協議会の開催

- ・7/8 第1回実施 今年度の計画、これまでの実績 等
- ・2/23 第2回実施 今年度のまとめ 等

2 事業の成果

○「ボッチャ」の競技に取り組んだことで、昨年度と同様、以下のような成果があがった。

- (1) 重い障害がある児童生徒でも道具等を工夫することで活動できる競技であり、ランプという投球台を使うことで、光明の児童生徒も少しの手の動きでボールを投球することができた。
- (2) やさしい競技で、初めて取り組んでも、ルールを理解して楽しめる。初めて取り組んだ小学生もすぐにルールを理解し、楽しく競技できた。
- (3) 光明特別支援学校の教員による出前授業では、親子でボッチャを体験し、小学校児童及び保護者が競技の楽しさを知るとともに、障害者スポーツを理解するきっかけとなった。
- (4) パラリンピックの正式種目であり、来たる 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて児童生徒が興味関心をもつきっかけとすることができた。

○実施上の工夫としては、

- (1) については、健常の児童生徒がアシスタントになることで、光明の児童生徒と協働して競技をすることができ、交流を深めることができた。
- (2) については、競技ボッチャのルールではなく、簡略化したルールも設定したことで、より競技を楽しむことができた。
- (3) については、事前にチーム分けをしておいてもらうことで、時間短縮ができた。また、ボッチャボールセットを多めに用意することで、活動時間を保障でき、充実した活動につながられた。
- (4) については、今年のリオデジャネイロ・パラリンピックでの日本選手の活躍を紹介することで（昨年度、メダリストの 2 人の選手に光明特別支援学校の放課後子供教室に講師として来ていただいた）、更に関心が高まった。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

○交流から共同学習へ

「交流から共同学習」に向けては、昨年度から一歩進んできた感がある。更に進めていくために、正式なボッチャ競技に近い内容にしていくことで、課題解決につなげていくことも考える必要がある。

○出前授業の実施

昨年度、企画していて実施できなかった出前授業が今年度 1 校であるが、実施できた。ボッチャが全国的に注目される中、小・中学校で取り組む学校が増えてきているので、来年度は、さらに増えることが予想される。特別支援学校で、ボッチャを指導できる教員はまだまだ少ないので、指導者講習会を行うなど、組織的に指導者を育成していくことが、今後の課題となってくる。